

# Economic Indicators

発表日: 2022年2月1日(火)

## 景気動向指数(2021年12月)の予測

～1月以降は足踏み感が強まる可能性大～

第一生命経済研究所 調査研究本部  
 経済調査部長・主席エコノミスト 新家 義貴  
 (TEL: 03-5221-4528)

### 10-12月期は持ち直しも、先行きに下振れリスク

内閣府から2月7日に公表される2021年12月の景気動向指数では、C I一致指数を前月差▲0.2ポイントと予想する。内訳では、耐久消費財出荷指数がプラスに寄与するものの、卸売業販売額や輸出数量指数が下押しとなり、全体では小幅低下が見込まれる。

3ヶ月ぶりの低下とはいえ、11月に前月差+3.0ポイントの急回復となった反動の面もあり、弱い結果ではない。10-12月期平均でみれば7-9月期を+0.5ポイント上回っており、均してみれば持ち直しと言って良いだろう。2月15日に公表される21年10-12月期GDPで高成長が見込まれていることと合わせ、景気が夏場の落ち込みから回復しつつあったことが示されている。

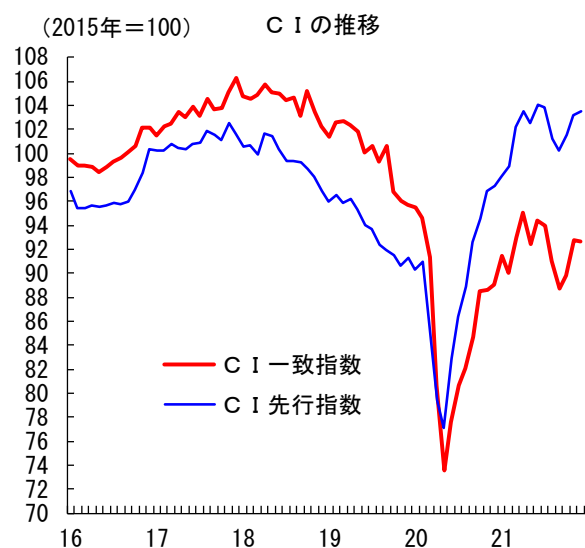
もっとも、1月に入って状況は一変しており、景気下振れリスクが強まっている。1-3月期に

については、新型コロナウイルスの感染者数が急拡大し、人々の行動が慎重化していることに加え、1月に再び部品調達難による自動車の大幅減産が実施されていることが景気を下押しする。感染状況次第では、1-3月期がマイナス成長となる可能性も十分あるだろう。C I一致指数も当面足踏み感が強まるとみている。

### 1月分での「改善」への上方修正は実現しない公算が大

内閣府によるC I一致指数の基調判断は4ヶ月連続で「足踏み」が予想される。「原則として3か月以上連続して、3か月後方移動平均が上昇」かつ「前月差プラス」との「改善」への上方修正基準をともに満たさない。

なお、仮に1月分で0.1ポイントでも上昇すれば、基調判断は「改善」へ上方修正される。もっとも、前述のとおり1月は自動車で減産が実施されたことが下押し要因となる。生産予測指数では1月に前月比+5.2%（経産省補正試算値では+0.6%）と上昇が見込まれているが、これは自動車減産の影響が反映されておらず、大幅な下振れとなるとみられる。1月に新型コロナウイルスの感染が急拡大しており、個人消費が落ち込む可能性が高いことも懸念材料だ。こうしてみると、1月のC I一致指数はマイナスになる公算が大で、基調判断の上方修正も見送られることになるだろう。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2021年12月は第一生命経済研究所による予測値

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。